

ちくしのびと

chikushinobito ⑳

今「輝いている、人・団体を取り上げる「ちくしのびと」。
今回は、県知事指定特産工芸品として認定を受けた県
内有数の工芸品『高取焼』を制作する「高取焼武蔵窯」の窯
元、石田 憲二さんを紹介します。

歴史ある陶器、高取焼

県内にさまざまある工芸品の中
に、400年以上の歴史を持つ陶
器、『高取焼』があります。薄さと軽
さが持ち味で、精
密な工程や繊細
な生地が特徴の
高取焼は、県内に
数カ所の窯があ
り、その歴史と伝
統から県知事指
定特産工芸品に
認定されました。
そんな高取焼の伝統を継承し、
多くの陶器を作り出しているち
くしのびとがいます。石田 憲二さ
ん。父の代から続く高取焼武蔵窯
を切り盛りする、この道56年のプ



▲石田さんが作った高取焼

ロフェッショナルです。

石田さんの作る美しい高取焼を
買い求めて、県内外から多くの人
が窯を訪れます。また、依頼を受け
てその人の希望に合わせた作品を
制作することもあります。

唯一無二の陶器

高取焼は、制作の開始から完成
までに約2カ月ほど時間がかかり
ます。また、陶器の成形、焼くとき
の火力と時間、陶器の色味につな
がるうわ薬の塗り方など、どの工
程一つとってみても少しの変化で
出来は大きく変わってきます。

高校卒業後から高取焼に携わ
り、長い経験を持っている石田さ
んです。焼き上がるまで分から



▲集中して造形する石田さん

ないこともあるといいます。「同じ
ように作っても、同じものは二度
とできない。そこが面白く、楽しい
ところです」と高取焼の魅力を語
り、どのようなものが出来るか
か楽しみながら制作しています。
飲食店などで偶然自分の作品と
再会することがあると、すぐに自
分の作品だと気づき、うれしくな
るそうです。

生活に根付いてこそその伝統

石田さんは、高取焼の伝統を守
りつつ、現代の生活に必要とされ
る陶器を作ることも重要視してい
ます。「陶器は使ってもらうことが
大切」と考え、常に使う人やその用
途をイメージし、細やかな調整を
行っています。そうして作られる
高取焼には、時間や手間と一緒に、
石田さんの優しさや思いやりが込
められています。

「どのような陶器なら若い人に
使ってもらえるか、それが今の課
題です」そう話す石田さんは、少し
悩みつつもどこか楽しそうな様子
です。

きっかけを、手元から

「日々の生活の中で、ふとしたと
きに高取焼のこだわりや良さに気
づいてもらう。そこから身の回り
のさまざまなものに意識がまわ
り、思いを巡らせ、新たなものが見
えてくる。高取焼がそんな気づき
のきっかけになれば幸いです」と
石田さんは高取焼へ思いを込めま
す。

石田さんの優しさや思いが形と
なって、美しい高取焼が今日もま
た生み出されます。



▲展示には数千点が並びます

Profile

昭和25年生まれ。市内
武蔵在住。高校卒業から
56年間、高取焼の制作に
取り組む。県展での入選
経験もあり、現在は高取
焼の製造・販売に携わる
傍ら、より多くの人に親
しみをもってもらうと
出張陶芸体験などの普及
活動を行っている。

趣味は、山歩きなどの
自然とのふれあい。

きっかけとなる一品を

高取焼武蔵窯 窯元

石田 憲二 さん